
社会福祉法人報徳会
事業計画 2017
事業報告 2016



社会福祉法人 報 徳 会

目 次

経営理念	1
事業方針	1
行動指針	1
中期目標・長期目標	1
平成 29 年度基本方針	1
法人重点事項・重点施策	1
法人内各事業計画	
全体基本目標	1
黒石特別養護老人ホーム 重点目標、重点事項、行事活動支援、地域交流、施設機能開放、業務運営、その他	2
黒石デイサービスセンター 重点目標、重点事項、行事活動支援、地域交流、施設機能開放、業務運営、その他	2
黒石在宅介護支援センター 重点目標、重点事項、業務運営、その他	3
養護老人ホーム景楓荘 重点目標、重点事項、行事活動支援、地域交流、施設機能開放、業務運営、その他	3
黒石ケアポートセンター 重点目標、重点事項、行事活動支援、地域交流、施設機能開放、業務運営、その他	4
とびっくす 四季折々・・・	11
各事業状況データ（2016） （前年度評価検証）	12
財務状況	32
法人概要	33

経営理念

心の中に心を持ち、人に心を運び心伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る

事業方針

1. 施設の社会化に努める
2. 心と心が触れあう信頼の場に努める
3. 豊かで安らぎのある健やかな生活が保障されるよう努める
4. 老人福祉施設として生活援助機能の強化に努める
5. 自立支援機能の強化に努める

行動指針(ケア方針)

4 H・4 Cの実践

Heart	心を磨く	Communication	情報を的確に捉え伝える
Head	知識・理解を磨く	Contact	接触・接近を図る
Hand	技法を磨く	Conference	会議・協議・相談を図る
Health	健康を磨く	Care	心を配り・心を寄せる・見守を図る

中期目標 (3年) 平成 29. 4. 1～平成 32. 3. 31

- ・生活環境機能の再構築の取り組み（生活形態に合わせたソーシャル機能の構築）
- ・サービス機能の開発の取り組み（地域社会との協働連携、専門機関との連携）
- ・共同連携機能の構築の取り組み（チーム＜多職種と個人＞運営力、パースナリティーの向上）

長期目標 (10年) 平成 29. 4. 1～平成 39. 3. 31

- ・安全、衛生、防災対策の整理・整備（自然災害、感染症、事故対策）
- ・トータルコスト整理、管理対策整備（社会保障制度改正への対応）
- ・介護サービス機能の整理・整備（医療・保健・福祉・介護と地域社会との連携）

平成 29 年度基本方針

相互にかい（届・会・偕）する関わりをする（4 H・4 Cの実践）

届	—	互いに考えを届け合うこと
会	—	互いに要点を理解すること
偕	—	互いに物事を調和すること

社会福祉法人報徳会 重点施策

- * 基盤になる機能・体制構築の取り組み
 - ・事業組織力の醸成
 - ・ひとりひとりの専門性（社会性）への取り組み
 - ・事業及びサービスの構成ならびに機能の検証
- * サービスの自己管理対策
 - ・サービス自己評価、他サービス機関からの事業評価（ひと・もの・サービス・じかん）検証
 - ・サービス標準化（全体・部門）と専門性への取り組み
- * 情報共有
 - ・記録様式類共有化、連動化、各サービス間の情報共有の整備
- * 実施対策の取り組み
 - ・標準ケアサービス、手順書、実施サービスの検証見直し
 - ・リスクマネジメントの検証と再定義
 - ・地域密着型介護サービス外部評価、福祉サービスの第三者評価、介護サービス情報公表制度活用による外部公開の取り組み
 - ・防火安全対策及び事業継続計画の構築

重点目標 社会情勢の変化に合わせ、地域ニーズをくみとり、選ばれる地域資源の担い手となる

重点事項 互にかい（届・会・偕）することで人としての存在を認め合う

<法人事務局 ・ 事業支援機関>

<総務グループ>

- 重点目標 ・利用者のご家族、職員へ安心を届けるため、業務の正確性と効率化をシンプルに整え、生産性を上げる
- 重点事項 ・業務を正確、効率的に進めるため、事務室内の環境整備と業務ツールの活用を整理する
・定期的な年間業務を整理し、月間と週間、日々の業務と合わせて見える化し、業務処理とチェックを年間を通して計画的に進める
・各事業部との連携のため、役割とルールをシンプルに分かりやすく整理する

業務運営

会計経理業務、庶務業務、人事労務業務の運営管理

理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、第三者評価委員会 総務グループ会議

<給食グループ>

- 重点目標 ・利用者ひとりひとりがおいしく笑顔になれるような食事提供を目指す
- 重点事項 ・嗜好調査を実施し、その方の普段の食生活や摂取状況について知る
・食事形態ごとに適した食材を見直し、より食べやすく安心で、見た目にも楽しい食事を提供する

地域交流、施設機能開放

栄養士給食施設実習

業務運営

栄養管理業務、衛生管理業務、調理管理業務

給食グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

黒石特別養護老人ホーム

<特養事業部 介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業>

- 重点目標 ・利用者のできる、できないを知り、その人が笑顔で過ごせる支援をする
- 重点事項 ・アセスメント付きチェック表を活用しアセスメントに繋がる記録の実践と定着を図る
- 行事、日常生活支援
- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会
- 活動 お楽しみ会、さくら餅、かき氷、餅つき、ちらし寿司

地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習
インターシップ、職場体験など

業務運営

特養事業部会議 介護グループ会議 看護グループ会議 ユニットグループ会議

サービス担当者会議（カンファレンス）

その他

健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種） 要介護認定調査 長谷川式スケール調査
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

黒石デイサービスセンター

<在宅事業部 通所・訪問介護・介護予防・日常生活総合事業・福祉事業>

- 重点目標 ・デイサービスのセールスポイントを確立し、利用者様、家族様に自信を持って案内し、満足していただけるサービスを展開する
- 重点事項 ・チームが互いの考えを届け、理解し、調和を図り、協働してサービスを展開する
- 行事、日常生活支援
- 行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会
- 活動 交流会、ドライブ、スポーツ大会、かき氷、丑湯、ショッピング、紅葉狩り、紙相撲大会、餅つき、節分（豆まき）、ひな祭り、団子づくり

地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、散髪ボランティア、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習

インターシップ、職場体験など

業務運営

在宅事業部会議 介護グループ会議 看護グループ会議 ユニットグループ会議
サービス担当者会議（カンファレンス）

その他

健康管理（体重測定） 長谷川式スケール調査 日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者）
機能訓練計画見直し 各アセスメント・モニタリング

黒石在宅介護支援センター

<総合ケアマネジメント機関 居宅介護支援・介護予防ケアマネジメント事業>

重点目標 ・社会資源の開発、提言を实践し、地域住民が、住み慣れた地域で暮らせるよう、他機関、多職種チームで支える体制づくり

重点事項 ・事業部が円滑に運営できるよう、ケアマネジメントの原点を顧み、他事業部との連携がとれる体制づくりと実践

・サロンなど地域住民と交流できる場所へ出向き、関わり、地域ニーズの把握を継続するとともに、小さな事柄から提案、協同の働きかけを行い積極的に地域へ出向き、元気な高齢者や要介護者等のニーズを拾う機会をもち、社会参加できる仕組やサービス開発を提案していく

地域交流、施設機能開放

介護支援専門員実務研修実習、担当地区民生児童委員定期交流、サロン運営支援

業務運営

介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防支援、介護予防ケアマネジメント、介護予防・生活支援サービス支援）

包括的支援事業（総合相談、権利擁護、黒石市地域包括支援センター運営協議会）
（認知症総合支援、地域ケア会議推進事業「定例勉強会」「連携会議」「ケース検討会議」）

一般介護予防（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

黒石市任意事業（認知症高齢者見守事業、在宅要介護高齢者紙おむつ支給券交付、成年後見制度利用支援、福祉用具・住宅改修支援、認知症サポーター養成、地域自立生活支援）

要介護・要支援認定・基本チェックリスト関連（認定調査、認定管理）

介護予防サービス計画、介護予防ケアマネジメントの業務（予防給付、総合事業）

居宅支援関連（相談受付・実態調査業務、調整業務、各アセスメント・モニタリング、ケアプラン管理・付帯管理手続業務、サービス担当者会議（カンファレンス））

その他

総合相談窓口（医療、保健、福祉サービス連絡調整）、地域ネットワークの構築・強化、地域密着型サービス運営推進会議、居宅機関会議、総合ケアマネジメント機関会議

養護老人ホーム景楓荘

<養護事業部 養護・特定施設入居事業>

重点目標 ・利用者の生活を1日として捉え多職種が協働し利用者の生活を支える

重点事項 ・専門的な知識を持ちチームとして情報共有を図り、(SHELL)の視点で分析を図る

行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会、慰霊祭、墓参り

活動 お花見、遠足（春・秋）、運動会、ねぶた・よされ見学、餅つき、節分、花・畑作り
音楽、手工芸、絵手紙、書道クラブ、カラオケクラブ、すこやか体操、大相撲星取り、

地域交流、施設機能開放

訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習

インターシップ、職場体験など

業務運営

養護業部会議 介護看護グループ会議 ユニットグループ会議

サービス担当者会議（カンファレンス）

その他

健康管理(体重測定) (健康診断、結核検診、予防接種) 要介護認定調査 長谷川式スケール調査
日常生活自立度調査(障害・認知症高齢者) 各アセスメント・モニタリング

黒石ケアサポートセンター

<地域事業部 認知共同生活介護・小規模多機能事業>

重点目標 ・相手に得を届けるため、なぜなぜ分析を繰り返し、分析結果を実践するための計画力を身に付ける

重点事項 ・今必要な優先事項・量を選択し、適切な計画ができるよう、過去・現在・未来、人・物・環境の視点での分析ができるようになる

行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 お菓子作り、お花見、花・畑作り、ショッピング、「わ」の食堂

ねぶた・よされ見学、餅つき、節分、参拝ドライブ、雪だるま作り、外食会

地域交流、施設機能開放

認知症介護実践者・リーダー・開設者・管理者研修施設実習、子ども参観日

介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、老年看護実習 インターシップ、職場体験など

業務運営

地域事業部会議 ユニットグループ会議 サービス担当者会議(カンファレンス) 運営推進会議

その他

健康管理(体重測定) (健康診断、結核検診、予防接種) 要介護認定調査 長谷川式スケール調査
日常生活自立度調査(障害・認知症高齢者) 各アセスメント・モニタリング

委員会・職域・会議体・プロジェクト

< リスクマネジメント委員会 >

1. 構成メンバー 鎌田千賀子 木立敬子 齋藤亜也子 齋藤美子 工藤真紀子 下島敬子

2. 目的

利用者が安全に生活できるよう、事故発生の防止及び発生時対応の指針に基づき、法人全体での共通施策を策定する。また、福祉におけるリスクマネジメントの意義について理解を深め、事故ニアミスの検証方法を確立させ、4M-4Eを活用しての多方面での視点を持てるよう啓発を行い、事故防止・再発防止に取り組む

3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

4. 内容

- ・事故・ニアミスの検証
- ・お客様の声のホームページ掲載
- ・第三者評価委員会開催(年2回)
- ・内部研修(年2回)・運営規程上の研修実施

5. 成果

- ・年間で計画した内部研修2回は、予定通り実施できた。
- ・1月予定の第2回第三者評価委員会の開催が感染症発症の為、延期となったが、3月に開催し、意見交換及び情報交換ができた。
- ・事故・ヒヤリハットの要因分析・対策のツールとして4M-4EからSHELLモデルへの切替を実施

6. 課題

- ・感染症発症を未然に防止するため、リスクマネジメント委員会の役割を果たし、利用者様、ご家族様にサービスを途切れることなく提供する。
- ・SHELLを使用し、職員の事故・ヒヤリハットの要因分析、対策をたてる力を身につけ、事故防止に取り組む

7. 事業計画

- ・事故分析の徹底 ・内部研修(2回)の実施

< 感染衛生対策委員会 >

1. 構成メンバー 雪田栄子 白戸富士子 三上昭弘 佐々木明子
田川義則 對馬千佳子 齋藤有美 今井里帆
2. 目的 入所者・利用者・職員の安全確保を図るために、菌を持ち込まない、広げないを全職員で徹底し、未然に防止し感染症・衛生・食中毒の予防をする
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容
 - ・職員ひとりひとりの衛生管理意識の徹底を図り、感染症の発生を防止するよう委員会活動し、専門性の高いサービスを提供する
5. 成果
 - ・勤続2年未満の職員を対象に嘔吐物処理の演習の実施し、感染症ノロウイルスについての知識、予防策について問題を解く方式を実施し理解度の測定を実施
6. 課題
 - ・動作手順、技術だけでなく、感染予防のため、なぜ必要なのか、理由付けを含んだ研修や日頃からの発信、確認、修正を行うことが必要
 - ・法人内事業所において感染症の拡大した状況があり、感染委員会としての適切な指示、発信、経過状況の把握、部門や各職域との協力、連携体制が不足
7. 事業計画
 - ・年2回の施設内研修
 - ・掃除、点検チェック表の実施と評価
 - ・食中毒ポスターの掲示
 - ・青森県感染症動向周知
 - ・ホームページの活用
 - ・調理室、キッチン内掃除の内容の標準化
 - ・感染症強化期間前に全体への周知、各部門消毒液の配置等チェック
 - ・マニュアルの確認と修正

< 情報管理委員会 >

1. 構成メンバー 工藤真理子 工藤晋也 工藤将太 戸田明子 千葉亜李奈 石岡栞奈
2. 目的 情報の共有並びに一元化、管理運用整備
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容 記録様式の整備、情報管理運用、組織のマニュアル見直し及び整備、カリキュラム一元化
5. 成果
 - ・ホームページの定期的な更新とご家族様が閲覧できる専用ページを見直し情報を定期的に発信
 - ・連絡メールを毎月の送信テストにより受信確認を実施、感染症発症時の情報発信が随時可能となる
 - ・広報誌を本格的に開始し、今年度は3号まで発信する
6. 課題
 - ・様式管理の審査（年2回）の間隔があり、審査が間に合わず、修正等その後の整理も遅れる
 - ・ホームページソフトのバージョンアップがあり、操作変更が生じ更新に時間を費やし更新計画に変更を生じた
 - ・共有データの中身が乱雑になっており、審査に提出していない書類も散見され整理に支障を来たす
7. 事業計画
 - ・毎月の書類審査に移行、データベース化し活用する
 - ・ホームページ更新手順の操作習得と定期更新
 - ・共有データの整理と定期的な管理
 - ・パッケージソフトの活用による広報誌、法人のパンフレット作成
 - ・連絡メールの到達確認の継続

< 人財育成委員会 >

1. 構成メンバー 須藤雅子 須藤麻美 鎌田尋也 石澤利圭 森山玲香
2. 目的
ひとりひとりの専門性及び社会性の構築、チーム力の醸成ならびに展開力の構築、職員一人ひとりが果たすべき役割を理解し行動すること、そして、一定で質の良いサービス提供が展開できるよう研修・実習体系を整備し、法人全体が共通した人材育成に取り組む環境と運用を図る
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容
 - ・新研修体系の運用チェック機関としての役割整理
 - ・講座全体の計画と運用チェック機関としての役割整理
5. 成果
 - ・研修申請書の対応手順書の整理により受講する側、開催する側の流れが明確になり、手順について質問を受ける回数や申請をミス場面が少なくなった
 - ・講座は、年間の講座構成表の予定より、研修開催の時期が遅れたり、担当する講師から各職域講座の初級・中級・上級の区別がしにくく全職域で重複する内容があるとの意見があり、講座の目的と項目の整理をし、オリエンテーション、基礎講座、専門講座に整備
 - ・オリエンテーションで育成すべき内容を整理、行動評価の導入
6. 課題
 - ・新任オリエンテーション内容の整備までで、運用実施まで進める計画が不足していた
 - ・基礎講座・専門講座・外部研修の整備をしたが、基礎研修の内容、担当する講師について再検討が必要
 - ・認知症研修、昇格要件研修の運用実施
 - ・介護支援専門員試験対策の必要性
7. 事業計画
 - ・オリエンテーションの運用
 - ・基礎講座・専門講座・外部研修の運用
 - ・キャリアアップシステムの運用
 - ・介護支援専門員試験対策と育成の計画

< 職域別 相談支援 >

1. 構成メンバー 八戸序季 山口由佳子、田中良子、工藤真理子、菊地望、白鳥麻衣子
2. 目的 専門性の構築を図る知識と機能の整備によるソーシャルワークの向上（チームアプローチ、多職種連携、組織の課題抽出）
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容
 - ・施設内研修（ケアプラン：利用から終了までの流れとアセスメントの視点）
 - ・成年後見人制度、権利擁護についての理解
 - ・様式の統合・整理（重要事項説明書・個人情報提供同意書、共通様式の整備）
 - ・障害福祉についての理解
5. 成果
 - ・サービス利用中の様式整備
身体拘束にあたる行為の11項目を基にアセスメントできる項目をフェイスシートに追加し内容の整備・周知・運用まで行う
看取り介護について、各専門職の役割を整理し一覧表を作成
 - ・社会福祉実習 受け入れ体制の整備
事前実習・職場・職種・ソーシャルワーク・実習評価の流れが混在し、計画指導が組みにくい状況を各実習の流れとねらいや指導する側の留意点などを構築し、実習生の課題に即して実習指導へ変更する
利用者のニーズ把握、分析した結果や繋がり弱さ強さなど、不足している資源についてどのように関りを広げていくのか、指導する側にとっても振り返ることができた

6. 課題

- ・利用～終了のチャートに沿って書類整備まで至らなかった（統一されているはずの書類が各事業部で使用されていないことや旧式の書類が進められていることなど、ケアに関わる書類が、それぞれの根拠に則った内容の理解と使用できる仕組みを構築する必要がある）
- ・利用～終了までの流れに関わる繋がりがわかりにくくその整備が必要
- ・ケアプラン、アセスメント表やチェック表と連動性、各職域の役割を再確認し、記録の適正化と合わせアセスメント様式の運用状況の評価必要

7. 事業計画

- ・契約書類関係整備の継続
- ・総合事業への法的根拠面でのサポートと整備
- ・施設内研修の実施

< 職域別 看護 >

1. 構成メンバー 三浦範子、吹越知美、佐藤由華利、大平昌子

2. 目的 看護の診る力を養い、専門性を高める

3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

4. 内容

- ・業務の平準化に向けて手順書の整備
- ・看取り介護の運用に向けて、使用物品の整備
- ・健康コーナー設置に伴い、健康レシピとしてポスター作成

5. 成果

- ・各事業部の業務の洗い出しを基に、項目に沿った手順書の整備を進め手順書の完成
- ・看取り介護は、面談時に各書類を使用開始し、家族の連絡先の再確認と看取り期の家族の関わりとしてどこまでの支援を希望しているか確認でき、支援についてケアの中に取り入れて試行する
- ・「血圧」「頭の血管」「心臓」についての健康のサポートとしてポスターを作成し情報提供する

6. 課題

- ・業務平準化として手順書作成するなか各部門の手順書内容との相違があり、各部門間での整合性を図り、平準化に向けての整理が必要である
- ・看取り介護では、様式の使用は開始となっているが、書類等の保管、各職種との連携が図れず運用に至っていない
- ・標準ケアの内容の見直し。
- ・看取り介護の多職種との連携と協働を継続し実践と振り返りを行い、次につないでいきケアの1つとして定着できる取り組みが必要

7. 事業計画

- ・各部門間の業務内容の確認とサポート体制の継続のために業務内容の平常時・非常時の作成

< 職域別 介護 >

1. 構成メンバー 浅利文子 佐山恵子 信平和香子 奥瀬美智子 山口千春

2. 目的 利用者がその人らしい生活を送ることができるよう、介護について根拠を全体に周知し、ひとりひとりが介護の専門性を高める

3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

4. 内容

(1) 実習生受け入れ体制の整備

- ・実習生体験の実施（職域部会員）
- ・指導者のあり方、実習担当者の育成について考える
- ・実習指導担当マニュアルの見直し

(2) 環境整備及び管理(人・物)

- ・活動物品の整理
- ・入浴に関する掃除、片付けの整理

(3) 看取りケア

- ・生活の場の基本となる考え方

5. 成 果

- (1) 介護に関わる実習生の受け入れの整備（人材の育成）
介護福祉士養成実習生受け入れ体制整備として指導者のあり方、実習担当者の育成に向けて実習体験の実施をした。実習指導担当マニュアルの見直しを行い受付～終了までの運用に向けて修正する
- (2) 環境の整備及び管理
入浴に関する器具の破損が目立っており、原因として片付け方法や整理整頓が統一されていないことから、掃除、片付けのポイントを整理したものをラミネートし作成し、入浴室掃除用具室へ貼り付けし活用する
活動物品整理としてステージ上に棚を設置し、（今後ボックス等使用し物品内容の種類で分別）整理と活用の整備する
- (3) 看取りケアの整備
看取りケアのフローチャートに組み入れ運用する基本となる考え方、必要物品の整理する

6. 課 題

- ・実習指導担当者の育成、研修を定期に実施する必要がある
- ・環境整備及び管理の評価が必要
- ・看取りケアの実施評価が必要

7. 事業計画

- 利用者が快適な生活を送れるよう介護の環境（人・物）を整える
- ・実習生の受け入れ（人材の育成）
 - ・環境の整備及び管理と評価

< 防災会議 >

1. 構成メンバー 事業連携基幹会議構成者

- ### 2. 目 的
- 防災訓練の確実な実施
 - 防災ガイドラインの作成
 - 防災対策環境整備（各設備の正常状態の把握）

3. 期 間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

4. 内 容

- ①防災訓練を法人全体で夜間想定訓練を実施（1回）、日中想定訓練を実施（1回）、事業部内で初動動作（緊急通報）訓練を実施（1回）
- ②防災ガイドラインの内容変更（見て実践できるQ&A式で写真付き内容の作成）
- ③各設備の正常状態の把握（新ガイドラインに写真付きでわかりやすく作成）

5. 成 果

- ①防災訓練実施時には、前回の反省を活かし、訓練内容の質を向上するため、評価する際のフローチャートを作成、実施者に講評を伝えるシステムを確立させた
- ②防災のガイドラインは新しい様式で、骨子と第1案の内容作成が終了する
- ③各設備の正常状態は、新ガイドラインにて、第1案が完成する

6. 課 題

- ・新ガイドラインが部分的に未完成
- ・福祉避難所としてのあり方が不明確
- ・防災訓練内容の質向上が図られていない

7. 事業計画

- ・新ガイドラインの完成（土砂、水害、防犯の視点を含む）
- ・福祉避難所としてのあり方の明確化
- ・防災訓練内容の質向上

< 判定会議 >

1. 構成メンバー 山谷 弘子、遠藤 瞳、船水 亮徳、八戸 序季
2. 目的
ベットのコントロールと稼働率の把握と向上への提言並びに介護保険福祉サービスの利用調整・承認・決裁、より良いサービス適応の視点と情報共有
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容 利用状況確認、新規登録申込者及び入所入居利用判定、動向と対策
5. 成果
 - ・入所入居利用に関わる判定会議のフローチャート詳細と情報システム（ほのぼのシステム）に合わせ切り替えをし、判定会議に使用する書式の修正をする
 - ・申込者へ意向確認を実施し、現状の台帳整理を行い新規利用者の状態確認やサービス移行時は、各専門職の視点で確認する方式にし、情報用紙から総合相談票へ切り替え、相談内容など多職種で共有をし、次へのアプローチが明確となりサービス移行時の対策と改善に繋がっている
 - ・ホワイトボードを活用し、職員集会で週間、月間の入所入居利用状況、稼働状況の情報提供の実施
6. 課題
 - ・入所申し込みから入所までのチャート中で、家族への入所確認時期や医療行為（喀痰吸引、経鼻栄養、インスリン注射）についての説明基準がなく、相談時や申込時の案内が断片的になっているため、判断基準の確立が必要である。
 - ・待機者となった申し込み者との繋がりを持つため、広報誌の送付や意向確認の方法の再検討が必要である
7. 事業計画
 - ・入所入居判定システムの相談受付、申し込み～入所総合判定の確立
 - ・入所入居意向確認チャートの見直しと入所入居判断基準の確立
 - ・入所申し込み時やサービス移行時の動向の抽出と対策、改善

< 総合ケアマネジメント機関会議 >

1. 構成メンバー 大平昌子 三浦範子 工藤真理子 山口由佳子 森山玲香
浅利文子 佐々木明子 齋藤亜也子 田川義則
2. 目的 総合相談機能支援機能管理
3. 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
4. 内容
 - ①総合相談窓口機能の確立
 - ②動向分析とサービス開発
5. 成果
 - ①職域ごと多職種構成者にし、毎月1回会議を実施する、機関の目的や役割を共有でき、今後の機関の方向性を出すことができた
 - ②実際に総合ケアマネジメント機関を運用するためのチャートを作成
 - ③苦情統計をデータ管理する仕組みを作り、相談時・利用時・終了時の区分で各職域が動向分析し、サービス開発するための分析表を作成した
6. 課題
 - ・機関運用チャートは作成したが、まだ機能できていない。
 - ・苦情の統計が出せず、動向分析まで至っていない
 - ・総合ケアマネジメント機関としての地域へのアウトリーチが少なく、地域住民や民生委員等と顔の見える関係ができていない
7. 事業計画
 - ・総合相談窓口機能の確立と運用
 - ・苦情の統計管理及び統計からみる動向抽出・分析と、それに関わる新たなサービスの開発
 - ・地域住民や関係機関との顔の見える関係作りと、多職種連携による地域支援の構築